

ともに考える防災の未来— 私たちの仙台防災枠組 講座シリーズ



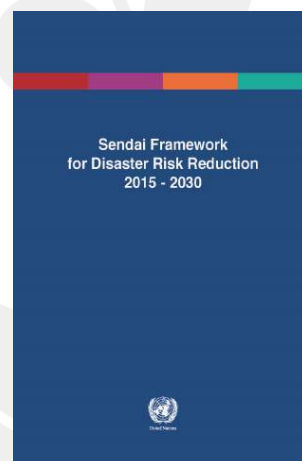
UN World Conference on
Disaster Risk Reduction
2015 Sendai Japan

第一回 市民のための仙台防災 枠組を学ぶ

仙台防災枠組
とは？

優先行動
って何？

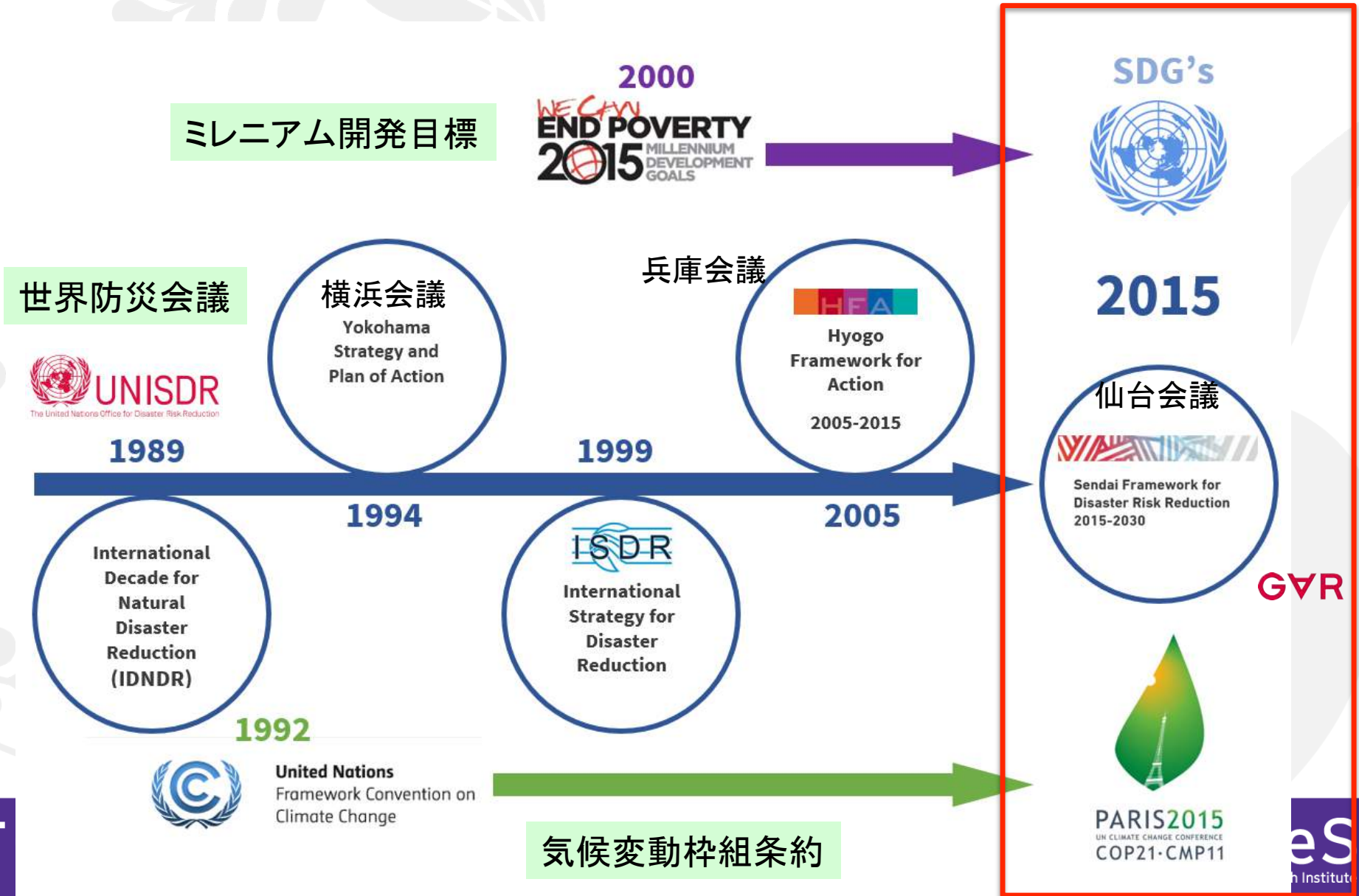
Build
Back
Better
って？



平成28年8月7日
地下鉄東西線 国際センター駅2階
青葉の風テラス多目的スペース

東北大学災害科学国際研究所
今村文彦

2015年国連会議を巡る世界的な動き



GVR

eS
n Institut

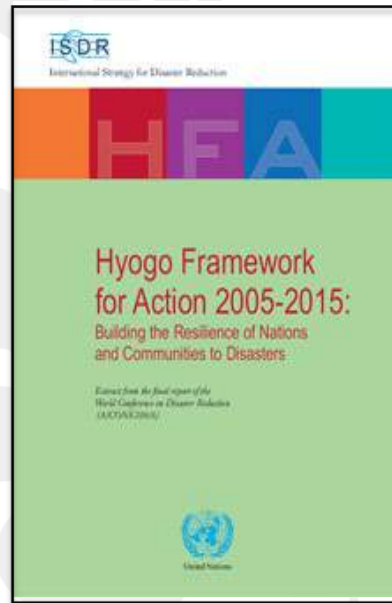
兵庫行動枠組から仙台防災枠組へHFA to SFDRR



Yokohama Strategy and Plan of Action for a Safer World

(May 1994 @ 1st WCDR)

防災について
世界で関心を
高めましょう



(Jan. 2005 @ 2nd WCDR in Kobe)

防災・減災へ
の行動を始め
ましょう



(Mar. 2015 @ 3rd WCDR in Sendai)

防災・減災へ具体的な活
動計画・実施へ、
減災目標と指標



第3回国連防災世界会議 結果概要(内閣府)

2015年3月14日(土)～18日(水)に仙台市で開催。

- 187か国の代表、国際機関、NGO等、本体会議に6,500人以上(首脳25名含む閣僚100名以上、国連事務総長、UNDP総裁)、関連事業を含めるとのべ約15万人以上参加。我が国で開催した国連関係の国際会議として最大級。
- 山谷防災担当大臣が議長を務めた。
- 天皇・皇后両陛下がご臨席のもと開会式が行われ、総理が挨拶を述べた。
- 新たな国際的な防災の取組指針である「仙台防災枠組2015-2030」を採択
- 総理が「仙台防災協カイニシアティブ」を発表し、今後4年間で計40億ドルの協力の実施及び計4万人の人材育成を行うことを表明。



両陛下御臨席の下の開会式



閉会式後、山谷大臣とワルストロム国連事務総長特別代表(防災担当)

東北大学の活動(企画運営, 発信, 継続)

UN World Conference on Disaster Risk Reduction 2015 Sendai Japan

2015.3.15 (SUN) Admission Free

Tohoku University Symposium

Our Message to the future

~ Lessons learned from the Great East Japan Earthquake ~

Date 10:30am-5:00pm (Scheduled Time)

Venue Convention Hall, Tokyo Electron Hall Miyagi

PROGRAM Language: Japanese (English simultaneous interpretation provided) *The schedule is subject to change.

10:30am~ Leading the reconstruction of the Tohoku region and the revitalization of Japan

○Panel Discussion

- 1 "The 2011 Tohoku Earthquake Disaster and its mitigation"
Fumihiko Imamura Director of International Research Institute of Disaster Science (IRIDS), Tohoku University
- 2 "Innovation and Reconstruction of Industry and Community"
Yutaka Nakai Professor of Graduate School of Agricultural Science, Tohoku University
- 3 "Restoration and Renovation of Medical Care"
Kazuhiro Igarashi Professor of Graduate School of Medicine, Tohoku University

2:00pm~ Lessons learned from the Great East Japan Earthquake

○Lecture

- "New role of the Tsunami Engineering on the basis of the lesson by the 2011 Tohoku earthquake disaster"
Fumihiko Imamura Director of International Research Institute of Disaster Science (IRIDS), Tohoku University
- "Towards earthquake forecasting - Hints provided by the 2011 Tohoku Earthquake"
Ryota Hino Professor of International Research Institute of Disaster Science (IRIDS), Tohoku University
- "Building a platform for future regional medicine, training future specialists of regional care"
Tadashi Ishii Tohoku University Hospital

フォーラム 2015.3.15(日)
シンポジウム
文国連事務総長に
講演いただきました。
ジウムの様子はコチラからご覧いただけます。



TOHOKU
UNIVERSITY

第一回 市民のための仙台防災枠組を学ぶ(今村・泉)

<http://irides.tohoku.ac.jp/>

IRIDeS
International Research Institute
of Disaster Science

「仙台防災枠組2015-2030」(概要)内閣府

期待される成果 (Expected outcome)

人命・暮らし・健康と、個人・企業・コミュニティ・国の経済的・物理的・社会的・文化的・環境的資産に対する災害リスク及び損失を大幅に削減する

目標 (Goal)

ハザードへの暴露と災害に対する脆弱性を予防・削減し、応急対応及び復旧への備えを強化し、もって強靭性を強化する、統合されかつ包摂的な、経済的・構造的・法律的・社会的・健康的・文化的・教育的・環境的・技術的・政治的・制度的な施策を通じて、新たな災害リスクを防止し、既存の災害リスクを削減する

グローバルターゲット (Global Targets)

- ①死亡者数
- ②被災者数
- ③直接経済損失
- ④医療・教育施設被害
- ⑤国家・地方戦略
- ⑥開発途上国への支援
- ⑦早期警戒情報アクセス

優先行動 (Priorities for action)

各行動は、国・地方レベル、グローバル・地域レベルに焦点を当てる

優先行動1

災害リスクの理解

優先行動2

災害リスク管理のための災害
リスク・ガバナンスの強化

優先行動3

強靭性のための災害リスク
削減のための投資

優先行動4

効果的な応急対応に向けた備え
の強化と、より良い復興(ビルド・
バック・ベター)の実施

ステークホルダーの役割 (Role of stakeholders)

市民社会、ボランティア、コミュニティ団体の参加
(特に、女性、子供・若者、障害者、高齢者)

学術機関、科学研究機
関との連携

企業、専門家団体、民間金融
機関、慈善団体との連携

メディアによる広報・普及

国際協力とグローバルパートナーシップ (International cooperation and global partnership)

一般的考慮事項(国際協力の際の留意事項)

実施方法

国際機関からの支援

フォローアップ行動

重要な内容

- 防災の目標(ゴール:1)と期待される成果:1
- 参加者(ステークホルダー:4つのレベル)
- そのための手段(優先行動:4)
- 途中経過の確認・数値指標を(グローバルターゲット:7)
- 国際的な協力関係



グローバルターゲット:7

増加(増やしたい)	減少(減らしたい)
防災戦略を持った地域(国)	人的被害
国際協力	影響人口
データ情報へのアクセス	経済被害
	重要な社会インフラ・機能の被害



1. 目標・効果？，参加者・協力

山登り(登山計画)と類似



どの山(ルート)に？



誰といつ？
サーポーター
スポンサーは？



2. 手段・方向性

- ✓ どのような方法(もの・機能)があるか？
- ✓ 途中で何をしなければならないのか？
- ✓ 何段階を設けるのか？
- ✓ いつまでに何を？



3. 途中の確認(モニタリング)

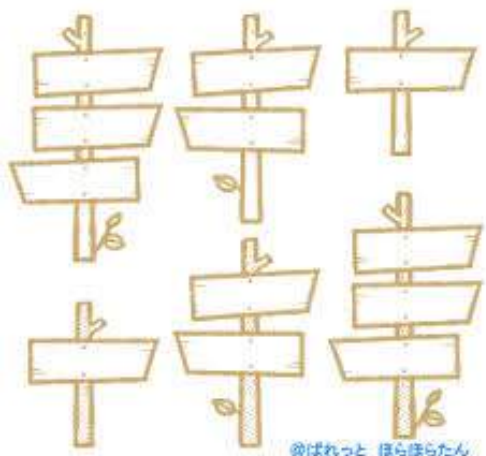
- ✓ 計画通りなのか？
- ✓ どこまで達成したのか？
- ✓ このルートは正しいのか？
- ✓ さらに追加(交代)は必要か？



頂上へは様々なルートがある



目標の再確認



途中の情報
を確認
必要であれ
ば追加も

4. ガイドブック(サポートI)

http://jcc-drr.net/wpJD/wp-content/uploads/2016/03/SFDRR_2a.pdf

市民のための

仙台 20
防災 15
-
20
枠組 30

Sendai Framework for
Disaster Risk Reduction
2015-2030

仙台防災枠組ってなに ?	4 ページ
仙台防災枠組の要旨	
第1章 序文 	9 ページ
第2章 望まれる成果と 目指すべき目標 	15 ページ
第3章 仙台防災枠組の基本となる 考え方(指導原則) 	21 ページ
第4章 わたしたちが優先すべき行動 (優先行動)  Action!	25 ページ
第5章 ステークホルダーの役割 	33 ページ
第6章 国際間での協力と パートナーシップ 	37 ページ

4. サポートII

市民のための

仙台防災枠組を学ぶ 第1回

仙台防災枠組とは？

優先行動って何？

Build Back Betterって？

第3回国連防災世界会議で採択された「仙台防災枠組」。「仙台」と名前の付いたこの枠組では、災害に強いまちづくりを進めていくためには、市民、市民・地域団体などのさまざまな人々（マルチステークホルダー）が防災・減災に取り組んでいくことが大切であるとされており、私たちにも身近な内容が多く含まれているのが特徴です。

一でも「枠組」って言われても…よく分からない…

この講座は、市民の皆さんと一緒に「枠組」について分かりやすく学び、私たちは普段の生活の中でどのように行動していくべきなのか、一緒に考える講座です。

震災の経験を伝えるために…
いつ起こるか分からない次の災害への備えのために…
一緒に理解を深めてみませんか？

2016年8月7日(日)

【午前の部】午前11時～午後1時
(午後10時30分開場)

【午後の部】午後2時～4時
(午後1時30分開場)

※ 午前の部・午後の部とも講座内容は同一です。

地下鉄東西線

国際センター 2階

「青葉の風テラス」多目的スペース

※ 会場へはできるだけ公共交通機関をご利用ください。
お車でお越しの場合は、せんだい青葉山交差点(仙台国際センター 駅北側有料駐車場)をお使いください。

定員 追加募集分 50名(無料・要事前申込)

※ 定員に達した場合は、開演前に募集を締め切る場合がございます。
また、参加時間外の講座をさせていただく場合がございますので、予めご了承ください。

【第1回 概要】

東北大学災害科学国際研究所 今村 文彦 所長
東北大学災害科学国際研究所 泉 貴子 特任准教授

「仙台防災枠組」は、今後15年間の防災・減災の世界共通の目標です。今回の講座では、この枠組の特徴について、国連防災世界会議での議論にも触れながら分かりやすく説明するとともに、ワークショップを通じて、これから地域でどのような防災・減災の取り組みをしたらよいか整理し、皆さんで考えます。



今村 文彦 所長

泉 貴子 特任准教授

仙台防災枠組 講座シリーズ 開催予定

※ 各回個別の参加も可能です。

第2回

「優先行動とステークホルダーの役割」

東北大学災害科学国際研究所
村尾 修 教授、ボレー・ペンメレン・セバスチャン 助教

日時 2016年9月3日(土) 午後2時～4時

会場 せんだい3.11メモリアル交流館
(地下鉄東西線荒井駅構内)



村尾 修 教授



ボレー・ペンメレン・セバスチャン 助教

防災・減災には、多様な関係者（マルチステークホルダー）が関わってきます。仙台防災枠組を踏まえて、こうした方々の役割について考えていきましょう。

第3回

「国際間・市民間での協力とパートナーシップ」

東北大学災害科学国際研究所
小野 裕一 教授、マリ・エリザベス・アン 助教

日時 2016年12月開催予定

特別講座

「大人も子どもともに学ぼう仙台防災枠組」

東北大学災害科学国際研究所
今村 文彦 所長、保田 真璃 助手

日時 2017年1月開催予定

最終ワークショップ

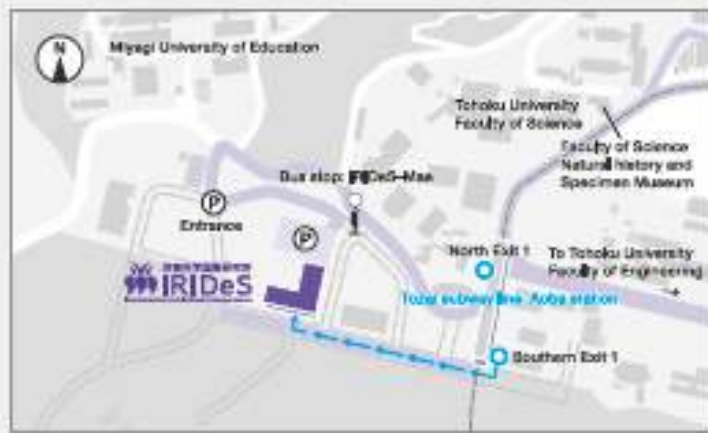
「仙台防災未来フォーラム2017」
で発表しよう！

日時 2017年2月開催予定

★第1回から第3回までの講座を全て受講された方には、「講座修了書」を差し上げます★



IRIDeS Enters Its Fourth Year



IRIDeS is now more accessible with Tozai Subway Line.

The Sendai Municipal Subway Tozai Line opened in December 2015. The station closest to IRIDeS is "Aobayama Station." Located only about 10 minutes from Sendai Station, it is now more accessible.



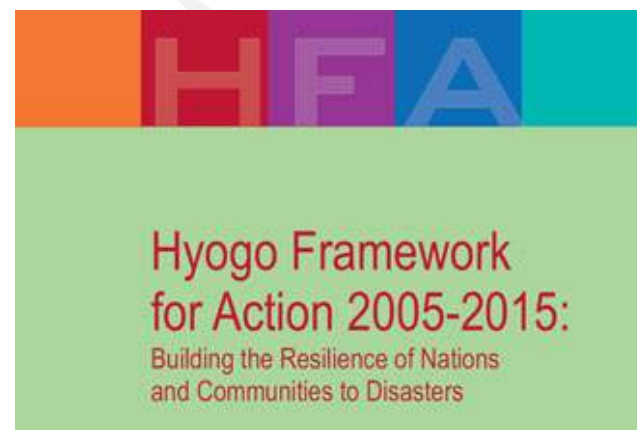
ともに考える防災の未来
私たちの仙台防災枠組 講座シリーズ

第一回 市民のための仙台防災 枠組を学ぶ

東北大学災害科学国際研究所
泉貴子

兵庫行動枠組が採択された背景

- 2004年12月にスマトラ沖地震が発生。**世界中で防災への関心が高まる。**
- 被害が拡大した原因：津波早期警報が整備されていなかった、津波への知識が十分ではなかった。
- 5つの優先行動の焦点：
 - (1)国や地方が**防災への政策を整備する、**
 - (2)**早期警報を向上させる、**
 - (3)**防災知識や教育を向上させる、**
 - (4)**潜在的なリスク要因を軽減する、**
 - (5)**迅速な緊急対応ができる体制を強化する。**
- 2005～2015年までに災害への備えを強化するためのガイドラインとなった。
- 防災はみんなの問題という意識が高まるきっかけとなった。1ドルを防災のために投資すれば、7ドル分の被害を軽減することができる。



なぜこのような枠組が必要？

- 兵庫行動枠組みは168カ国、仙台防災枠組みは187カ国により採択。
あらゆる国々が防災に真剣に取り組むことを決意。

その結果……

- 各国の防災への取り組みが充実：例えば？ フィリピンやインドネシアで防災・災害対応への政策が制定された。
- 防災の重要性に対する理解が深まる：例えば？ 災害により、国のGDP成長や開発速度が停滞、経済的ダメージが大きい、回復に時間がかかる。被害を軽減するために防災へ投資することが重要！



兵庫(2005年)から仙台(2010年)へ

兵庫行動枠組の主な成果

- 市民や各機関の防災への**意識啓発**、積極的な参加が実現。
- 災害による**死亡率の減少**につながった。
- 国際・地域レベルで会合が増え、**政策や戦略の立案**、**知識や相互理解の増進**に役立ってきた。
- あらゆるレベルの**多様なステークホルダー**が積極的に参加した。

世界の災害被害の軽減に貢献。
しかし、まだ不十分！！

兵庫(2005年)から仙台(2010年)へ

課題

- 10年間に70万人以上が死亡、140万人以上が負傷、約2399万人が住む家を失った。**15億人以上の人々が災害の影響を受けた。**
- **女性・子供・脆弱な状況にある人々**はより多くの影響を被っている。
- **小規模災害や、徐々に発生する災害**は、特に地方やコミュニティレベルに影響を及ぼした。
- **貧困、不平等、気候変動、都市化、不十分な政策**などの直接災害とは結びつかない要因(潜在的リスク)は、災害被害を拡大する要因となる。



第3回国連防災世界会議： 仙台防災枠組み（2016年－2030年）の採択

1. 災害リスクの理解（これまでの災害や防災知識・情報共有）；
2. 災害リスクガバナンスの強化（セクター・レベルごとに政策、リスク削減戦略・計画を策定）；
3. 災害リスク削減への投資（施設やインフラの強化、災害医療分野の充実、環境保護などへの投資）；
4. 災害対応への備えの向上と、復旧・復興過程における「より良い復興（Build Back Better）」（緊急支援・対応メカニズムの強化、復興へ防災対策を反映）

- 災害被害の軽減から、災害リスクの軽減へ（From reduction of disaster losses to reduction of disaster risk）
- 「何を」から「どのように」へ（From What to How）



具体的目標：
死亡者数、被災者数、直接経済損失、インフラへの損害の減少と防災戦略を有する国家数の増加、国際協力の強化、早期警戒システムの向上

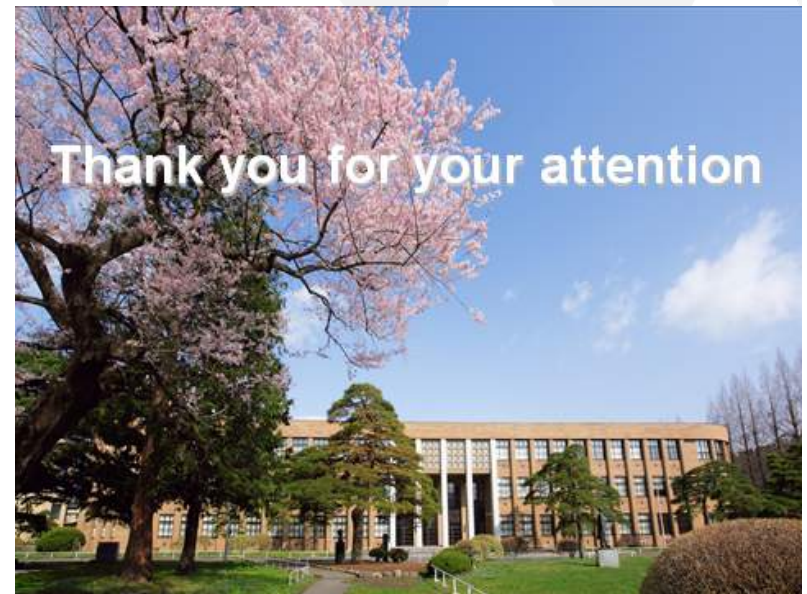
何が求められているか？

- ① **政府・自治体**: リスクを管理するために計画・政策を作成し、女性、子供、高齢者、障害者など個別のサポートやニーズを取り入れる
- ② **学術・企業**: 災害リスク、特に潜在的リスクに焦点をあて、地域の活動を支援する。政策と科学の連携を支援。情報の提供、技術開発など。
- ③ **コミュニティ**: 計画・戦略の実施に参加、地域の防災知識の向上

あらゆるレベルの組織・機関の参加が必須！

公共・民間セクター、市民社会団体、学術および研究機関は、より緊密に連携する必要がある。





グループワークの課題

- 1) 仙台防災枠組に対する理解は深まりましたか？
- 2) さらに知りたいことは？
- 3) これまでにどんな取り組みがありましたか？また、今後、どのような取り組みの計画がありますか？



グループディスカッション(30分)

付箋に意見等を書き、模造紙に貼る
グルーピングしながらディスカッション

グループ発表

8グループ × 3分程度

スペシャル活動報告

仙台白百合学園SGHの皆さん